

●令和7年度 ぽーたー 事業計画書

事業方針

法人設立より5年目を迎えた。設立してから職員の退職もなく、事業も順調に進んでいる。さらに事業の拡大や新規事業も計画していくが、本格的に大所帯になる前に、人材育成に重点を置いた組織内の仕事のやりやすさ、責任の所在、ガバナンス機能を高め、スタッフ一人ひとりの力が発揮しやすい職場環境に努める。

法人の理念でもある個人、地域、社会を大切にするのとおり、地域交流を行う。内容は昨年より実施している文化祭を実施。また別に、この地域での存在感を示すためにも様々な広報活動を実施していく。

数年先に成人の障害福祉サービスを実施し、未就学～成人期まで幅広い支援で豊かな人生をサポートする。その準備として少しずつ歩みを進めていく。

(重点ポイント)

- ・個人の労務管理シート（目標管理シート）について様式変更を実施。
- ・職位による、専決事項の見直し、担当による裁量の共有。
- ・新事業に向けての研究、準備（1名12：30～17：30勤務、採用）。
- ・事業所前の山林の整地を進め活用を検討する。
- ・屋根、外壁の修繕。
- ・公用車の更新（パレット）の検討。
- ・地域交流として商業施設での文化際を実施します。

●令和6年度 のびのび 児童発達支援事業計画

事業方針

事業開始から3年目を迎えた。利用された子ども、保護者からは非常に高い満足度を頂いているが認知度がまだ低いように思われるので広報活動に力を入れる。

昨年より取り入れたビジョントレーニングの特徴をさらに活かした療育、活動プログラムを実施する。

またこの2年で徹底した個別療育を行ってきた。効果、取り組み内容を一度モニタリングし改善点については抜本的に実施する。（時間、送迎、内容等）

(重点ポイント)

- ・ビジョントレーニングを強化する。ビジョントレーニング推進委員会が主催す

る「ビジョントレーニング指導者 1 級視覚認定者」を 1 名養成する。

- ・四半期に広報誌を作成し、保護者、こども園、関係機関に当事業所の取組みを広報する。また Line やインスタグラムを活用し事業所の様子をアピールする。

- ・ペアレントトレーニングのプログラムを作成する。家族が交流できる取組みを検討する

- ・他施設の見学を実施し、学ぶ。

●令和 6 年度 のびのび 放課後等デイサービス事業計画

事業方針

昨年より研修で知識を深めた、見える化、児童期 SST、ペクス、マカトン等が現場で実践されており、子どもたちとの信頼関係も深まっている。今年も最新の知識を学び現場で実践していきたい。また子どもたちには選択肢を増やせるよう余暇活動や物品、備品の更新を積極的に行う。

移行支援である同世代の交流や社会資源の活用をねらいとした土曜日活動は普段とはまた違った楽しみを持って参加している。子どもたちや保護者の意見も参考に年間計画を作成、実施する。

保護者との面談は、子どもの成長を共有し未来に向けて話し合える大切な時間であり、保護者の足が向きやすい仕組みづくりを検討する。

利用ニーズを受け止めきれない状態である。また感覚過敏や言語の獲得を頑張ろうとしている子どもには環境配慮が必要。また特性別に小グループに分けた活動も提供したい思いもあり、支援室の増設と職員増、その先に定員増（新たな事業所）に変更を目指す。

（重点ポイント）

- ・研修への積極的な参加（児童期発達障害実務者講座 1 名 強度行動障害支援者養成研修、基礎 1 名、実務 1 名 児童発達支援管理責任者研修 1 名 その他）

- ・保護者向け研修を 5、6 月に実施（ペクス）10 人程度の規模で実施予定。対象はのびのびの利用保護者と特別支援学校に配布予定。

- ・専門的支援のスムーズな提供について仕組みを確立する。

- ・現事務所の機能を 2F に移す。支援室兼相談室としての活用方法を検討する。
（4 月から何に使うか決定。5 月に職員募集。そして実施）

- ・四半期に広報誌を作成し、保護者、こども園、関係機関に当事業所の取組みを広報する。またインスタグラムを活用し事業所の様子をアピールする。

- ・ペアレントトレーニングのプログラムを作成する。家族が交流できる取組みを検討する

- ・業務の省力化。毎年書類等の事務処理が増えてきている。より良い療育を子ども達に提供するためには、不必要な業務や効果が低いものは整理が必要。思い切った整理を実施していく。